【新聞制作学習】全校研究・ＩＣＴ部会/小学４年生

「読み手に伝わる新聞を作ろう」～読み手を意識した新聞づくりを通して表現力を高める～

指定校２年次　飯田市立伊賀良小学校　池田 智樹

（１）本年度のＮＩＥ活動の概要

本校は、ＮＩＥ研究指定校２年目になる。新聞を読んだり、書いたりしたことを伝える活動を通して、ただ文章を書くのではなく、相手意識をもって、自分の伝えたいことが伝えらえた喜びを味わうことができるようにしたいと考え、１年間実践してきた。

活動に関しては、主に新聞作りを行い、「５Ｗ１Ｈを使った文章にする」、「見出しを見て内容がわかるようにする」、「事実と感想を分けて書く」の３つの観点を大切にして、読み手に伝わる新聞を作ることを大切にした。また、完成した新聞を取材した先生に見てもらいたいという相手意識をもち、常に読み手のことを考えて新聞作りを行えるように、学習展開の工夫を行った。

１学期からの実践を見返すと、実際の新聞を読む活動を通して、世の中の出来事や社会情勢に関心をもったり、新聞を書く活動を通して、読み手のことを考えて文章を書こうとしたりするようになった。

（２）本年度のＮＩＥ活動の取り組み状況

本校は全校児童８５１人、３３学級(内特別支援学級７)の大規模校である。指定校２年目の本年度は、４年２組(男子１８人、女子１５人、計３３人)を中心に研究を進めてきた。

４年２組の子どもたちに新聞の購読状況について聞いたところ、半分以上の家庭が新聞を購読していないことがわかった。また購読していても、実際に読むのは父母や祖父母であるため、多くの児童に新聞を読む機会はほとんどないことがわかった。

各教科においては、社会見学等のまとめを新聞として表したり、本年度は国語の「新聞を作ろう」の単元で、新聞制作をしたりした。実際の新聞を活用した活動では、スクラップブック作りに取り組んだ。

（３）ＮＩＥ活動の狙い（育てたい力）

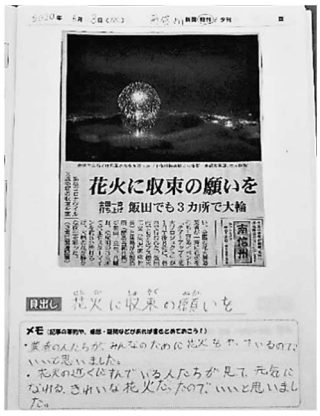
昨年度の実践に基づき、本年度はよりよい表現力の育成のために

Ａ 学習方法について　：①問題状況の中から課題を発見し、設定する力
　　②相手や目的に応じてまとめ、表現する力

Ｂ 自分自身について　：③意思決定する力

Ｃ 他者や社会について：④他者と協働して、課題を解決する力

以上の４つの力を高めていきたいと考えた。



（４）４年２組での取り組み

＜スクラップブック作り＞

①信濃毎日新聞社からいただいたスクラップブックを活用し、自分の興味のある記事をスクラップして、感想や疑問を書いた。

②慣れ始めたところで、文章を要約する活動を加えた。

③２学期に入り、各社の新聞が届くようになったところで、週に１、２回のペースで記事をスクラップし、コメント(感想・疑問・要約のいずれか)を書くという活動を行った。

④１回の活動の中で、２つ以上スクラップし、コメントを書くことを課題としている。

＜スクラップ新聞づくり＞

①スクラップ新聞で扱うテーマを考え、そのテーマに関する記事を集めた。

②集めた記事の中から、スクラップ新聞に貼りたいものを選び、レイアウトを考えた。

③貼りたい記事の要約及びスクラップ新聞全体を見ての感想や疑問を書いた。

④記事・要約・感想や疑問を模造紙に貼り付け、題名を書いた。

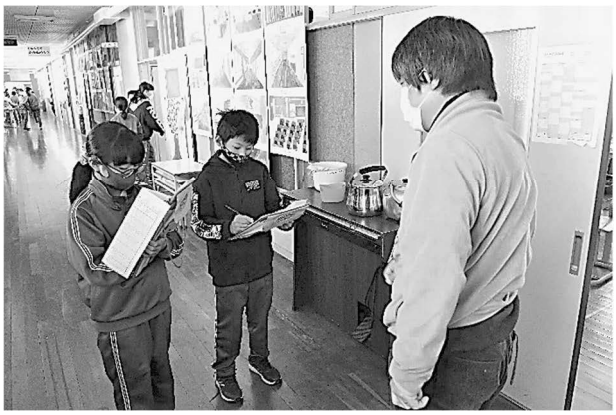
⑤完成したスクラップ新聞を児童がお互いに見合い、感想を伝え合った。

（５）公開授業などの活動内容

単元名　「読み手に伝わる新聞を作ろう」　（総合的な学習の時間）

①単元設定の理由

４年２組の子どもたちは､これまで､伊賀良小学校に関することで興味を持ったことや、社会見学で学んだことのまとめとして、新聞作りを行ってきた。社会見学の際は、下水処理場や清掃センターの職員に積極的に質問をしたり、見たり聞いたりしたことを熱心にメモに書き留めたりしていた。またスクラップブックやスクラップ新聞作成など、新聞から必要な情報を読み取ったり、気になる記事をまとめたりする活動を行ってきた。このような活動を通して、当初はあまり新聞にかかわりのなかった子どもたちにとって、新聞は身近なものになってきている。



しかし､いざ記事を書く活動になると､何をどう書けばいいのかわからなかったり、取材した内容をただ書き写すだけになってしまったりする児童が多くいた。この児童の様子から、一生懸命調べたり取材したりした内容を新聞としてまとめるときに、読み手を意識して書いていないのではないかという課題が見えてきた。

そこで、記事を書くためにはどのような取材をし、取材した内容をどのように記事にすればいいのかを学ぶためにＮＩＥ出前授業の受講を企画した。その中で子どもたちは、取材の仕方と新聞記事・見出しの書き方を学んだ。５Ｗ１Ｈを使った質問の考え方や見ただけで記事の内容がわかる見出しの書き方など、教わった内容をもとに新聞作りを行ってきた。続ける中で「この記事は、だれについての部分が抜けているから書いたほうがいいよね」「この記事はコロナ禍での先生の苦労が書かれていていいよね」など、自分たちで記事を読み合い、よりよい記事へ改良していく姿が見られた。それと共に、子どもたちが今ま

で書いてきた記事は、調べたことをただまとめただけになってしまうことが多く、読み手のことを十分に考えて書かれていないという自分たちの新聞作りに対する課題にも気付き始めた。

これまでの新聞作りの活動は、読み手が読みやすいように考えて記事が書かれていないなど、読み手に対する配慮が低かったように思う。そこで、現在、社会に大きな影響を与えている新型コロナウイルスに対して、６年の修学旅行・５年生の社会見学・保健室の日々の業務では、どのような対応を行ってきたのかを題材にした新聞を作成することで、取材をした先生に自分たちの作った新聞を見てもらいたいという相手意識が生まれる活動になるのではないかと考えた。子どもたちには、この活動を通して、自分だけが理解できる文章でまとめるのではなく、読み手に伝わる文章でまとめることができるようになってほしいと願い、本単元を設定した。

②単元の評価基準

評価の観点	A学習方法		B自分自身	C他者や社会
	問題状況の中から課題を発見し、設定する	自分の目的に応じてまとめ、表現する	意思決定する	他者と協働して、課題を解決する
具体の評価基準	① 利便性や保存性など、新聞のもつ良さについて考えている。 ② どのような題材が新聞にふさわしいか考えている。	③ 自分が伝えたいと思った内容に観点をもって取材し、取材した内容を分かりやすくまとめている。 ④ 見出しを読んで記事の内容が理解できるように考えている。	① 自分が伝えたいと思った内容を記事にするために、取材した内容から、必要なものを取捨選択しようとしている。	① 友だちや読み手の意見を参考にして、３つの観点を意識しながら、自分や他の班の新聞の良さや改善点に気付いている。

③単元展開（全１２時間）

学習活動と子どもの意識	時	支援・評価
○伊賀良小学校のことで、新聞にしたい題材を考えよう ・今年は行事が少ないから、題材が少ないな。 ・新型コロナが流行ったよね。 ・新型コロナでどんな変化があったんだろう。 ・６年生の修学旅行と５年生の社会見学は日帰りになったらしいよ。 ・保健室の先生はどんなことをしているのかな。 ・どの先生にインタビューをしようかな。	1	・班ごとに、今年の伊賀良小学校でどのような出来事があったか、意見を出させる。 A－2
○取材の仕方を学ぼう ・質問は５Ｗ１Ｈをもとに考えればいいのか。 ・メモは相手の言葉をすべて書くのではなく、自分がわかる言葉でメモすればいいのか。 ・インタビュー前と後のあいさつはどんなことを言えばいいのかな。	1	・講師の市川先生とどんな内容にするか事前に打ち合わせをする。 A－1
○担当の先生にインタビューをしよう ・どの時間にインタビューをすればいいのか事前に聞いておかなきゃいけないね。 ・友だちの質問も忘れずにメモしよう。	1	・インタビューが苦手な児童は、質問を少なくしたり、教師と共に質問をしたりさせる。 A－3

・終わったら仲間同士でメモを確認しよう。		
○読み手に伝わる新聞記事の書き方を学ぼう ・トップ記事に一番伝えたい内容を載せるのか。 ・事実と感想を分けて書くことが大切なんだね。 ・見出しを見て、記事の内容がある程度わかるようにするんだね。	2	・講師の市川先生とどんな内容にするか事前に打ち合わせをする。 Ａ－１
○自分の担当する記事の下書きを書こう ・市川さんに教わった「５Ｗ１Ｈを使った文章」「見出しを見て内容がわかる」「事実と感想を分けて書く」の３つの点に気を付けて書こう。 ・班の仲間で困っている人がいたら、アドバイスをしてあげよう。	1	・記事の書き方がわからない場合は、取材した内容を整理させたり、一番伝えたい内容が何なのかを考えたりするように促す。 Ａ－４　Ｂ－１
○５Ｗ１Ｈを使った文章が書けているかチェックしよう ・班の中でお互いの記事を読んでチェックしよう。 ・記事をまだ読んでいない読み手（第三者）の目線で読もう。 ・先生や友だちと確認すると、意外と５Ｗ１Ｈが抜けているところがあるなぁ。	1	・第三者が読んで内容が理解できるかどうかに注目させる。 ・見方がわからない場合は「だれが」「どこで」など、５Ｗ１Ｈの具体例を示す。 Ｃ－１
○下書きを、５Ｗ１Ｈを使った記事に書き直し、記事を割り付けよう ・５Ｗ１Ｈを意識して記事を修正しよう。 ・困ったら友達に相談しよう。 ・下書きに書いたとおりに書き写そう。 ・読み手が読めるように丁寧な字で書こう。	2	・第三者が読んで内容が理解できるかどうかに注目させる。 Ａ－３　Ｂ－１
○「見出しを見て内容がわかる」「事実と感想を分けて書く」の２つの点が達成できているかチェックしよう ・まだ「見出しを見て内容がわかる」「事実と感想を分けて書く」の２つの点を見ていないよね。 ・他の班の友だちにも見てもらいたいな。 ・５Ｗ１Ｈの時と同じで、自分以外の人に見てもらうと、間違えているところがよくわかるなぁ。 ・「見出しを見ただけで内容がわかる」の部分が上手にできていると言ってもらえてうれしかった。	本時	・パソコンの使い方を事前に確認しておき、パソコンの使い方が苦手な場合は個別に指導する。 Ｃ－１
○新聞を仕上げよう ・「見出しを見て内容がわかる」「事実と感想を分けて書く」の２つの点で、アドバイスをたくさんもらったな。 ・アドバイスの通りに直してみよう。 ・私はアドバイスの通りじゃなくて、今のままがいいと思うんだけどどうかな。 ・読み手に伝わるといいな。	1	・第三者が読んで内容が理解できるかどうかに注目させる。 Ａ－３　Ｂ－１
○新聞を先生に見ていただき、感想をもらおう ・○○先生に伝わるといいな。 ・感想を書いてもらうアンケート用紙みたいなものを準備したほうがいいよね。 ・とても読みやすいと言われてうれしかった。 ・見出しがうまく書けているって言われたよ。 ・読んでもらった先生からアドバイスをもらったよ。次に新聞をつくる機会があったら気を付けたいな。	1	・休み時間等を利用し、インタビューをした先生に新聞を届けさせる。 ・感想を書くアンケート用紙等を作り、読み手の先生に感想を書いてもらうようにする。 Ｃ－１

④本時案

４学年　「総合的な学習の時間」学習指導案

期日　令和３年　１月１３日（水）　　授業学級（男子１８人、女子１５人、計３３人　　授業者　池田智樹　教諭

1　単元名「読み手に伝わる新聞を作ろう」（全１２時）

2　単元を通してつける力

・「５Ｗ１Ｈを使う」、「記事の内容がわかる見出しにする」、「事実と感想を分ける」の３つの観点に基づいて新聞を書くことができる。

・友の助言をもとに、自身の作品の良さや改善点を見つけることができる。

3　本時案

（１）主眼

新聞づくりに大切な３つの観点をもとにコロナ禍における伊賀良小学校の対応についての新聞づくりを行ってきた子どもたちが、自分たちの作った新聞がそれらの観点に沿って書けているか確認する場面で、完成した新聞を互いに見合い、３つの観点を意識した助言や感想を伝え合う活動を通して、他の班の作品や自分の作品の良さ、改善点に気づくことができる。

（２）本時の位置（第１０時　前時：下書きを、５Ｗ１Ｈを使った記事に書き直し、記事を割り付けよう　　次時：新聞を仕上げよう）

（３）展開（板書計画を兼ねる）

導入(５分)	追究(２５分)	一般化・まとめ(１５分)
１月１３日（水） T：みんな新聞はできましたね。これで完成ということでいいですか。 S：５W1Hの部分しか確認していないよ。 S：他の２つの部分もチェックしたいな。 S：この新聞は読み手に伝わるのかな。 学習問題 自分たちの作った新聞は読み手に伝わるようにかけているのだろうか。 見通し ①見出しを見て内容がわかるか。 ②事実と感想を分けて書けているか。	学習課題 新聞を見合い、アドバイスや感想を伝え合おう。 ・児童に各班の新聞を配布する。 ・PCのJamboardを使用し、助言や感想を付箋に書いていく。 ・見通し①について→黄　見通し②について→青　まとめ→ピンク 青①　記事②の６行目に文章が事実なのに感想みたいな書き方になってるよ。 黄色①　トップ記事の見出しには、「先生」という言葉を入れた方がいいと思うよ。 黄色②　見出しを見て、消毒の使い方に注目した記事だとすぐわかったよ。 青②　先に事実、最後に感想と分けてかけているので読みやすかったよ。 １人３班分見る（５分×３班）	まとめ どの記事も事実と感想を分けてかけていたので良かった。しかし、見出しと文章がつながっていない部分があったので、次は読み手が見たいと思えるような見出しにしたい。 はじめの５分は自分のＰＣで各班のまとめを見る。残りの１０分で発表をする。

指導・支援，評価

PCの使い方を事前に確認しておく。書き方がわからない児童には、もう一度２つの観点を確認するよう促す。

３つの観点を意識して、自分や他の班の新聞の良さや改善点に気づくことができたか。(記述・発表)

（６）児童の反応

Ａ児の姿から

Ａ児は最初、「コロナで行く場所変わる」という見出しを考えた。見出しをクラスでチェックしたときに、他の班の友だちから、「見出しをもうちょっと詳しく書いた方がいいのではないか」というアドバイスを受けた。Ａ児の中では、見出しの文字数はできるだけ少なくしたいという思いがあり、初めはアドバイスを受け入れなかった。しかし、新聞を渡した先生の感想で「見出しをもう少し詳しく書くと、相手に伝わりやすくなるのではないか」という指摘を受けて、最後の振り返りでは、「見出しを短くしすぎず、もう少し詳しく書いて、見ただけで内容がつかめる見出しを作りたい」と考えるようになった。

Ｂ児の姿から

Ｂ児は最初、５Ｗ１Ｈを使った文章を書くことが難しく、特に文中の主語を省略して書いてしまうことで、相手に伝わりにくい文章になってしまうことが多かった。しかし、班の友だちに「ここに書いてある、バスの乗り降りで消毒をした人はだれなの」などとチェックしてもらい、「担任の先生だよ」と答えていく中で、「だれが」のような主語を書かないと、相手に伝わりにくいことに気付くことができた。最後の振り返りでは、「友だちにチェックしてもらって、文章のミスを発見できてよかった」と答えていた。

（７）成果と課題

・今までは、自分だけがわかればいいような文章で新聞を書いていた児童たちであったが、インタビューをした先生に伝えたいという相手意識を持ったことで、相手に伝わりやすい表現を探り、見出しや記事の内容をより良いものにしていくことができた。

・児童用タブレットパソコンを使って感想やアドバイスを伝え合うことで、普段なかなか発言をしない児童にも、自分の意見をたくさん書き込んでいる姿が見られた。

・感想やアドバイスの書き込みはパソコン上で行ったが、新聞はあえて紙で配布し、児童が手元で読めるようにした。結果的にパソコンを切り替える動作がなくなったため、児童はスムーズに感想やアドバイスを書き込むことができていた。

・同じ班の仲間や、別の班の友だちに新聞をチェックしてもらう活動を通して、自分の新聞を客観的な視点から見てもらい、感想やアドバイスをもらうことができた。また、友だちの新聞のチェックを行うことで、よりよい表現の仕方を学び、自分の新聞に生かす機会を得ていた。

・本時案の「見出しを見て内容がわかる」「事実と感想を分けて書く」の２つの点が達成できているかチェックする活動は、時間的にも内容的にも４年生には難しかった。新聞を読む時間を多くしたり、チェックする点を２つではなく１つに絞ったりするなどして、児童がゆとりをもって感想やアドバイスを伝え合う環境を整えてあげるべきだった。